

2.女性農業者の皆様いろいろな聞いてみました！

(1)きっかけ



参加者

農業に対してなんとなく興味はあるけど、お仕事にすることは考えたことがないです。農家さんになるきっかけって、どんなことだったんですか？

高校時代は農業をしようとは考えていませんでしたが、先生から「一次産業（農業）を大切にしない国は滅びる」と聞き、衝撃を受けて一念発起。**「わたしが地域の農業を盛り上げる！」**との強い思いから、農業大学校に進学し、卒業後すぐに就農しました。



大沼さん

私は代々農家の家庭で育ちましたが、農家の跡取りになるつもりは全くありませんでした。会社員時代に夫と結婚することになり、夫婦ともに趣味が多いので、**自分で時間を作って趣味も存分に楽しめる農業が自分たちに合っている**のではないかと話し合っ
て、夫婦で脱サラし、一から農業をスタートしたんです。



庄子さん

南三陸町の自然やあたたかい人たちと触れ合い、都会の会社勤めでは気づかなかった**人間らしい豊かな生活スタイルに憧れ**、この地で新規就農することを決意。ひとりで新規就農しようと思っていたところ、当時、既に脱サラして就農していた夫と出会い、夫婦で星農場を営むことになりました。



星綾子さん

今の仕事上では、生産をしているというわけではないですが、今の会社に入ったきっかけをお話しますね。東京での会社員生活は充実していましたが、昔から憧れを抱いていた農村での暮らしや、大学時代に学んできた持続可能な観光の知識を活かしたいという思いがずっと心のどこかにありました。東日本大震災が発生し、災害があっても、**お金は役に立たないが、自分たちで食べ物を作れるようになると強い**のではないかと感じ退職。自身の信念が叶えられそうな伊豆沼農産の求人を発見し、入社しました。



佐藤さん

(2)おしゃれ



参加者

農業は土で汚れたり、日にも焼けるので、作業着を着て、日焼け対策のために顔を隠して…というイメージでした。でも、皆さんオシャレでステキなんですが…

わたしの場合は、ネイルは欠かさないし、農作業も普段着でやるようにしてます。それは、せっかく興味を持って誰かが話しかけようとしてくれたり、何かお仕事のお話をしに来ようとしてくれてるときに、暗くしていたり、だらしくしちゃったら、**せっかくのチャンスを逃すと思ってる**の。意外とネイルが傷むこともないし、何よりオシャレして畑にいる方がモチベーションが上がって、自分が楽しいんですよね！



高山さん

今は作業着専門店でも機能的なだけでなく、オシャレで、しかもお手ごろ価格の商品がたくさん販売されているんですよ。アウトドアメーカーのものもちろん丈夫なので、趣味の登山用と兼用してます。あと、農業をすると、毎日がエクササイズなので、体も引き締まるし、よく眠れるようになるし、**内面からも健康でキレイ**になれます。



星綾子さん

(3) やりがい



参加者

今、就職活動に向けて準備をしています。仕事は、お給料などももちろん大事ですが、私は親を見ていると、**何よりやりがいがある**かなと思ってます。農業をしているとどんなことにやりがいを感じますか？

とにかく自分のやりたいことを、いくらでもやりたいようにやれることかな。農業は、人それぞれやり方が違うし、**自分を最大限に表現できて**とっても楽しいです。夢中になって、寝るのも惜しんで取り組むときもあります！



大沼さん

わたしは元々はしいたけ嫌いだったけど、しいたけ嫌いの方に「**ねほりばーらんのしいたけなら食べられる！**」と言ってもらえるときかな。農家さんはみんな、頑張って作ったものをお客さんが褒めてくれたときが一番やりがいを感じると思いますよ。



中條さん

仕事は、生きるためにお金を稼ぐ手段であって、農業に限らず、どんなお仕事でも大変なことはあるんですね。わたしは農業もお金のためと割り切ってやってますよ。でも、そんな仕事の中でも**自分しか気づかない小さな喜び**はたくさんあるし、何より働いた後にお酒を飲む瞬間だったり、好きな旅行が好きな時にできたときに、そういうことを感じられるかもしれませんね。それから、農業はひとりで黙々と人と関わらずにできる、と思って始める方も多いけど、実際は逆で、様々な方と繋がり、コミュニケーションが大切。**会社員のときよりずっとたくさんの人と関われる**ことも、私にはやりがいのひとつになっています。



高山さん

(4) お金のこと



参加者

ごめんなさい。農業はなんとなく、一生懸命汗水流して働いても、収入が少ないイメージです…実際はどうですか？

雇用就農は、シーズンにもよりますが、**ほぼ一定のお給料をいただけます**。不自由なく一人暮らしもできて、友人ともお出かけしたり、オシャレや趣味のスポーツも楽しんです！



錠前さん

子供たちが小さい頃は、シングルマザーだったし、不自由なく育てたいと思って、野菜作りのほかに、お惣菜や軽トラで野菜の直売などをやっていた時期もありましたけど、今は少し大人になったので、頻繁に東京に行って、ライブに、お買い物に、食事にと楽しめますし、東北内を旅行したり、バイクでのツーリング、登山もよくしています。夜は、フレンチレストランなどでおしゃれに食事をしに行くこともありますよ。**趣味とお友だちとの時間を十分楽しめるくらいは、いただいています**。



高山さん

自分でどれだけ収入を得たいかで、逆算して栽培計画を立てて取り組めば、目標が高くても案外クリアできます！

わたしたちの会社の場合、入社後、ある程度会社内の業務全体を経験し、理解してもらえばお給料も上げていきますし、役職にも就いてもらって、そのお手当も支給しています。もちろん、退職金もお支払いするので、**一般の企業と金銭面でのシステムはほとんど同じ**だと思います。家庭を持つ男性も女性も働いていますので、心配しなくても大丈夫じゃないでしょうか。



今野さん

(5) 体力的なこと



参加者

暑い日も寒い日も一年中屋外で作業したり、重いものを持ったりしなければいけないので、体力がない私にはつとまらない気がします…

大丈夫！私も体が強い方ではないけど、うちのスタッフさんも私もみんな慣れました！そして、農業して体を動かすと、筋トレ・ストレッチになるからか、むしろ体調を崩すことが減って健康体になりました。



星綾子さん

私はスポーツするのが好きなので、早い段階で体が慣れてきたのもありますが、何よりうちの会社の苺の苗を植える高設棚は、女性が作業しやすい高さに設定されていたり、道具や台車など女性が作業しやすいものを社長が選んで、できるだけ体に負担がかからない環境を整えてくれています。



錠前さん

女性ひとりで農業していると、地域のあらゆる方々に助けてもらえることも多いと思います。日々納品に行く直売所で知り合う農家さんだったり、近所で農業している方だったり、農家以外の方でも、最初は知らない者同士でも、コミュニケーションを図っていくうちに知り合いになり、力仕事のときなどは駆けつけてくれるようになるんです。

そして、ときには自分自身も誰かを助ける。

そうやってきたので、力がなくて困ったということもないし、夏の炎天下や真冬の凍えるようなときには、無理して農作業せず、ちゃんと休む。

自分でいくらでもコントロールできます。



高山さん

(6) 時間やお休みのこと



参加者

農家さんは、年中忙しくてお休みも不規則じゃないですか？

私はまず、お仕事の日は日中は慌ただしい日もあるけど、夕方には必ず仕事を終えて、ダンスやバレーボールに行ったり、オタクな一面もあるので、漫画やプラモデル作りの時間を確保します。冬場は毎年長めのお休みをとって、家族で欠かさず旅行にも行きますよ。夫婦であっても、「家族経営協定」*をきちんと取り交わすことで、お互いの希望するワークライフバランスも守られます。



庄子さん

*「家族経営協定」とは、家族農業経営にたずさわる各世帯員が、意欲とやりがいを持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき取り決めるものです。

わたしが子どもの頃、両親がキクを栽培していたときには、繁忙期は食事をする時間も寝る間もあまり確保できず、夜通し収穫や出荷準備をしていましたが、ガーベラを栽培するようになってから、週1回以上はお休みをとって、好きなように過ごしてますし、日が出ているうちにだけ働くと決めているので、夜は家族だらんや趣味を楽しんでいます。



西條さん

わたしはすぐ仕事に夢中になってしまうので、始めの頃はその他のことが二の次になってしまうことも多かったんです。

夏場は特に体力も使うし、「水曜日は必ず休む」と決めて働くようにしました。それから、冬場は農作業も落ち着くので、そのタイミングで海外など遠方に旅行に行くようにもなりました。



大沼さん

(7)目標や夢



参加者

農業をする上での目標や、今後叶えたい夢はありますか？

養蜂や地域内の蜜源植物についてもっと学びを深めながら、ミツバチも人も幸せになれるような取り組みにしていきたいです。昨年から竹炭づくりを始めたので、農地に入れて土壌が変化していく様子を観察していきたいです。農地のそばに皆で休憩したりおしゃべりしたりできる交流拠点も作りたいです。1つずつ実現していきます！

若い方と農業を通してふれあう機会が増えるように、これからも色々な取組にチャレンジしていきたいと思います。花がある幸せを一人でも多くの方に感じていただけるようなキレイなお花を生産していくことが日々の目標です。

デリシャストマトのブランド価値を高め、ヒット商品を開発することです。品質にこだわり、消費者に信頼されるブランドを築くとともに、トマトを使った新商品にも挑戦したいです。また、農業の後継者不足解消のため、収益性の高い農業を目指し、効率的な生産方法や新技術を導入します。若者への教育や支援も行い、次世代の担い手を育成し、地域経済や農業全体に良い影響を与えていければ幸いです。

お仕事の面では、日本列島どこへでもキッチンカー出店し「人と人を結ぶおむすび」で新たなご縁のおむすびコミュニティを作ることです。

また、夫と古民家蕎麦カフェをし、テレビ番組「人生の楽園」に出演して、「私たちの人生って最高！」と心からの感謝を出逢った方々にお伝えしたいです。

農業や食を通して、みんなが穏やかな気持ちを共有できるような居場所・空間を作りたいです！ここにまた帰ってきたいと思えるような入谷だからこそできる、第二・第三のふるさとを、師匠が私にしてくれたように、私も誰かにつくってあげたいです。

(観光果樹園か、農園カフェか、ゲストハウスなのかは検討中です(笑))

プライベートでは、30歳までに結婚！！です(笑)



引地さん



平山さん



今野さん



星光さん



大沼さん

女性農業者と女子大学生の意見交換会を開催しました。

2025年2月13日(木)に3年間の本事業の中で、「農と食の体験ツアー」をお受け入れいただきました女性農業者とツアーに参加いただいた女子大学生にお集まりいただき、意見交換会を開催しました。

この意見交換会では、若い女性が農業を職業の選択肢のひとつとして考えるようになるには、どのような課題があり、どのような取り組みや支援が必要なのかをグループワーク形式で話し合いました。

今回のご意見は、宮城県で活躍する若手の女性農業者がさらに増え、宮城県の農業が益々盛り上がっていくよう県の施策に活用してまいります。ご協力いただき誠にありがとうございました。

グループワークの中で挙げられたご意見をほんの一部ですが、ご紹介いたします。

課題①：農業に興味があってもだれに相談すれば良いかわからない

解決案：24時間いつでも見学や相談ができる窓口があると良い

解決案：大学の食堂などに「就農者募集」のポスターを貼る

解決案：菜園カフェなどで気軽に相談できる場所が欲しい

課題②：子どもの頃に農業に触れるきっかけがない

解決案：県内小中高校で特定の授業に農業を取り入れる(義務化)

解決案：給食の時間に農業の話聞きながら食事をする

課題③：農業体験をする場所を知らない・ない

解決案：仕事の後に気軽に聞けるオンライン相談窓口の設置

解決案：商業施設内の料理教室のようにワンコインで農業に触れられる場所

課題④：農業の求人を目にする機会がない、子供の頃から接点がないので職業のひとつとして考えられない

解決案：農業の経験談を先輩から聞ける座談会を開いたり、求人を見やすくする仕組みづくりをする(一般企業の求人プラットフォームのように)



農業の実情を子どもの頃に知ることができないこと、気軽にお話を聞いたり相談できる場所を知らないことが大きな課題であることが分かりました。